広瀬川レポート　調べるごみ拾いを行いました

2023年度の春の一斉清掃（第33回／2023年4月22日）において、大橋会場の右岸・左岸では「調べるごみ拾い」を行いました。

今回のごみ調査は、全国水辺のごみ調査『水辺のごみ見っけ!』に準じた形で、ペットボトル、レジ袋、カップ型飲料容器の個数を数えながら清掃活動を行いました。参加者の皆さんに数人一組になってもらい、3種のごみの数をチェックシートに記入しながら清掃活動をしていただきました。

この日は強風で作業が大変な中、対象外のごみについても記入報告してくださったグループも多くありました。プラスチックごみの他、タバコの吸い殻も依然として多かったようです。ごみを拾うだけではなく、ごみの種類や量について記録してくことも必要と考えています。

＊『水辺のごみ見っけ!』…全国川ごみネットワークが、ごみ削減の仕組みづくり、水辺の環境保全活動などに役立てようと、全国の団体に呼びかけて行っています。（参照　https://kawagomi.jp/mikke/）

■ごみ調査結果

飲料ペットボトル	レジ袋	カップ型飲料容器
55	62	46

（参加者:110名、全体で収集したごみの量:約10袋分）

実行委員会への加入について	広瀬川1万人プロジェクト実行委員会は200を超える団体や企業で組織されています。 プロジェクトの目的に賛同し、以下の役割を担っていただける会員を随時募集しています。 手続きはHP【組織→実行委員会への加入】から行うことができます。
実行委員の役割	1.協賛金の提供／広瀬川1万人プロジェクトへの協賛金（1口10,000円／年度毎）のご提供 2.事務局業務への協力／流域一斉河川清掃実施にむけた、事務局業務への協力や、新規事業の企画運営業務などに関する協力 ※以上の役割りは、ひとつでも両方でも結構です。詳しくは下記事務局までお問い合わせください。
企業の社会的責任等（CSR活動）に関する参加証明書の発行について	広瀬川1万人プロジェクト実行委員会の主な活動である流域一斉河川清掃は、宮城県、仙台市など公共事業入札総合評価制度におけるボランティア活動への参加実績として、評価対象となっています。 実行委員会に加入していただいた団体・企業には、清掃活動に参加いただいた場合、参加証明書を発行できます。 詳しくは下記事務局までお問い合わせ願います。

広瀬川1万人プロジェクト実行委員会

㈱IHIインフラシステム東北営業所/JFEエンジニアリング㈱東北支店/NECプラットフォームズ㈱東日本支社/㈱NJS仙台事務所/NTTコムウェア㈱地域事業本部東日本支店/アイサワ工業㈱東北支店/旭イノベックス㈱東北営業所
アジア航測㈱仙台支店/㈱アドテック/アマゾンジャパン合同会社 SPS Gives/荒汗復興推進協議会/㈱安藤・間東北支店/㈱イーストコア/いであ㈱東北支店/伊東工業㈱/㈱植木組東北支店/㈱ウヌマ地域総研仙台支社/エクシオグループ㈱
㈱エクシオテック/㈱エスケークリード東北支店/荏原実業㈱東北営業所/遠藤興業㈱/㈱大江設計/奥田建設㈱/㈱オリエンタルコンサルタンツ東北支店/㈱開成エンジニアリング/回胴式遊技機商業協同組合東北支部/鹿島建設㈱東北支店
㈱カメヤ/川田建設㈱東北支店/川田工業㈱東北営業所/木田建設㈱/基礎地盤コンサルタンツ㈱東北支社/㈱協栄興産/㈱協和エクシオ東北支店/協和設計㈱東北支店/㈱栗本鐵工所東北支店/㈱建設環境研究所東北支社
㈱建設技術研究所東北支社/㈱興盛工業所/㈱コウリョウ/コーアツ工業㈱東北営業所/国際航業㈱仙台支店/㈱駒井ハルテック東北営業所/㈱コンピュータシステム研究所/作並地区未来プロジェクト/佐藤工業㈱東北支店/㈲佐藤測量設計
佐藤鉄工㈱仙台営業所/㈱サトー技建/三建設備工業㈱東北支店/サンコーコンサルタント㈱東北支店/㈱三洋設計/三洋テクニックス㈱/三洋テクノマリン㈱/ジオ・サーチ㈱/重吉興業㈱/㈱芝玄/情報労連宮城県協議会/城北興業㈱仙台支店
ジョンソンコントロールズ㈱東北支店/㈱新星コンサルタント東北支社/新東総業㈱/㈱水機テクノス仙台支店/水道機工㈱東北支店/水ing㈱東北支店/水ingAM㈱東北支店/水ingエンジニアリング㈱東北支店/㈱菅伸建築設計事務所
西武建設㈱東北支店/星和電機㈱東北支社/㈱錢高組東北支店/仙建工業㈱/（公社）全国上下水道コンサルタント協会東北支部/㈱センソクコンサルタント/国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所/仙台環境開発㈱中間処理場
仙台市カヌー協会/仙台市シルバー人材センター/仙台市百年の杜推進課広瀬川創生係/仙台城南高等学校/仙台河川国道事務所仙台西国道維持出張所/仙台南地区広瀬川環境美化推進協議会/仙東技術㈱
㈱綜合技術コンサルタント東北支店/㈱相友建装/㈱ダイエツ仙台支店/㈱大気社東北支店/大成建設㈱東北支店安全衛生環境協力会宮城支部/大同機工㈱仙台営業所/大日本コンサルタント㈱東北支社/㈱大和エンジニヤリング仙台営業所
㈱ダイワ技術サービス/大和電設工業㈱/大和リース(株)仙台支社/瀧上工業㈱/㈱地圏総合コンサルタント/千田建設㈱/㈱中央コーポレーション東北営業所/中央コンサルタンツ㈱仙台支店/㈱長大仙台支社/月島JFEアクアソリューション㈱仙台支店
月島テクノメンテサービス㈱/ティ・ケイエンジ㈱/㈱テイコク/㈱テクノ東北/テクノ・マインド㈱/東海鋼管㈱仙台営業所/東京コンサルタンツ㈱東北支店/㈱東建工営/東光電気工事㈱東北支社/㈱東信空調/東鉄工業㈱東北支店
東北学院大学/東北三建サービス工事㈱/東北遊技機商業協同組合/東北緑化環境保全㈱/㈱東洋技研/東洋熱工業㈱東北支店/㈱ドーコン東北支店/NPO法人都市デザインワークス/飛島建設㈱東北支店/㈱西島製作所仙台支店
内外エンジニアリング㈱東北支店/中野建設コンサルタント㈱/㈱ナカムラ仙台支店/㈱ナスキー/名取川水系水質汚濁対策連絡協議会/NPO法人名取ハマボウフウの会/西松建設㈱北日本支社/ニッカウヰスキー㈱仙台工場/日建工業㈱
日誠工業㈱/日本基礎技術㈱東北支店/日本工営㈱仙台支店/日本工営都市空間㈱/日本ファブテック㈱仙台営業所/日本コード・メンテナンス㈱仙台営業所/能美防災㈱東北支社/㈱パイタルネット/パシフィックコンサルタンツ㈱東北支社
㈱パスコ東北事業部/八本松緑地愛護協力会/㈱ピーエス三菱東北支店/ピーチテニスクラブ東北/東日本コンクリート(株)仙台営業所/広瀬川市民会議/広瀬川を楽しむ会/(株)深松組/(株)富士測地開発/㈱フジタ東北支店
フジタ道路㈱東北支店/㈱復建技術コンサルタント仙台支店/古河産機システムズ㈱東北支店/㈱丸島アクアシステム東北支店/㈱三浦興業/NPO法人水・環境ネット東北/㈱みずほ電設工業/三井共同建設コンサルタント㈱
㈱宮城衛生環境公社/(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク/宮城県建設業青年会/美和電気工業㈱東北支社/杜の都建設協同組合/八千代エンジニヤリング㈱北日本支店/㈱山下設計東北支社/大和工業㈱/㈱鷹泉閣岩松旅館
横河ソリューションサービス㈱東北支店/ライト工業㈱/㈱ワタケン/㈱渡辺技工/(一社)仙台建設業協会:赤坂建設㈱/阿部建設㈱/㈱阿部砂利建設/㈱阿部和工務店/㈱熱海工務店/㈱石井組/㈱泉工務店/栄喜工業㈱/遠藤工業㈱
奥田建設㈱/奥山工業㈱/皆成建設㈱/㈱加賀/河北建設㈱/㈱鎌田建設/栗村建設興業㈱/㈱小松建設/後藤工業㈱/㈱さとう総業/㈱佐元工務店/㈱柴田建設工業/㈱ショウエー/伸和興業㈱/㈱鈴木建設/伸和興業㈱/仙台アスコン㈱
仙台土木建築工業㈱/仙舗建設㈱/㈱高工/鷹觜建設㈱/千田建設㈱/㈱丹勝/通信道路㈱/東北共栄建設㈱/㈱東北リアライズ/㈱東北ロテック/東北グレーダー㈱/鋼谷建設㈱/中城建設㈱/中田建設工業㈱/日道建設㈱/㈱日啓工業
㈱橋本店/長谷川建設㈱/㈱広瀬組/㈱ビルド/㈱桝田組/㈱丸三建設興業/丸武建設㈱/㈱三浦組/八嶋建設㈱/山辰建設㈱/ヤマトワーク㈲/㈱湯目建設/陽光建設㈱/ワーカー工業㈱/若葉建設㈱/㈱渡邊舗装工業　2024年3月時点230団体

お問い合わせ

広瀬川1万人プロジェクト実行委員会事務局

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3 仙台市市民活動サポートセンターLC114

TEL 080-7004-4932　E-mail info@hirosegawa-sendai.org

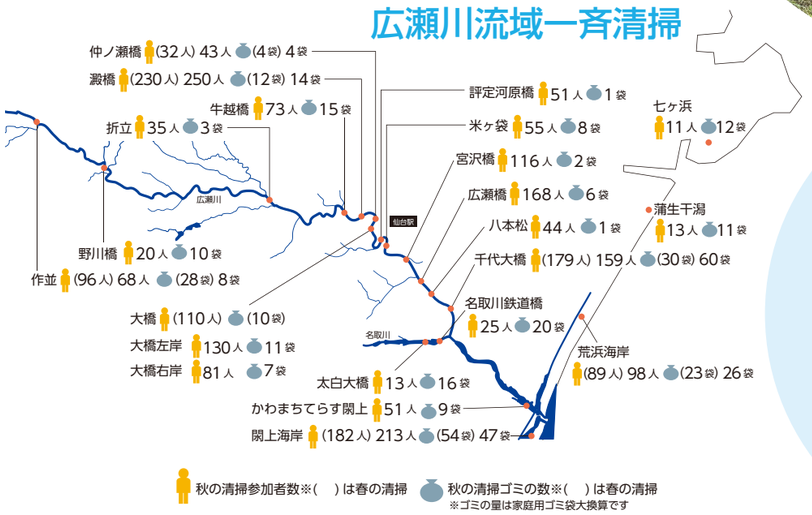
FAX 022-778-2683　HP https://www.hirosegawa-sendai.org

2023年度 活動報告

広瀬川 1万人プロジェクト

I LOVE HIROSEGAWA

広瀬川流域一斉清掃



第33回 春の清掃

2023年4月22日(土)

参加者数合計 918人

ゴミの数合計 161袋

第34回 秋の清掃

2023年9月23日(土)

参加者数合計 1,717人

ゴミの数合計 291袋

アイラブ広瀬川 広瀬川創生プラン

杜の都・仙台のシンボルである広瀬川。その自然環境を守り、より多くの市民が親しめる広瀬川とするため、100万都市仙台の1%にあたる1万人をキーワードとして、市民・企業・行政が連携して様々な取り組みを行っています。

ピリカ利活用勉強会

2024年2月28日(水)
仙臺緑彩館

2023 年秋から宮城県が導入したゴミ拾い SNS ピリカについて、導入の経緯や活用事例などを学び、広瀬川 1 万人プロジェクトでの活用の可能性を探るための勉強会を開催しました。

講師に宮城県循環型社会推進課リサイクル推進班の目黒さんを招き、実行委員会運営会議のメンバーと、来季からゴミ拾いを計画している東北工業大学の環境サークルたんぽぽの学生が参加しました。

宮城県が矢本の海岸で漂着ゴミの調査を行ったところ、プラスチックゴミの個数が圧倒的に多かったそうです。内陸で発生したゴミが、川によって海に運ばれて海岸の漂着ゴミとなることは知られていますが、調査で回収したゴミの表記等を分析した結果からも、外国由来の物はほとんどなかったそうです。

プラスチックゴミは流出する過程で小さくなり、マイクロプラスチックとなります。マイクロプラスチック化したゴミを野生生物が誤食してエサを食べられなくなって死亡したり、魚類の体内に蓄積しそれを人間が食べたりする事も問題になっています。
ほかにも海洋に出てしまうと回収が困難になったり、塩分の付着によりリサイクルが難しくなったりと、問題を挙げるとキリがありません。

さらにゴミの処理費用は沿岸部の自治体が負担していますが、内陸部の自治体の負担はなく、処理費は年々増加しています。海洋ゴミを出さないようにするには、県民一人一人がごみ問題への意識を高めることが必要という観点からピリカが導入されたそうです。

現在、宮城県内では利用者は 2500 名ほどで、半年でおよそ 2.6 万トンのゴミが回収されています。2026 年末までには利用者を 2 万人に増やし、13.7 トンのゴミを回収することを目標にしているそうです。

不法投棄の抑制に利用している自治体や、通勤途中のゴミ拾いをアップしている人、毎月実施している清掃活動の報告に使っている団体、全国にある工場で行っている清掃の記録に使っている企業など、様々な使い方がされています。

ゴミ拾い SNS ピリカを使ってゴミ拾いをしてみました

ゴミ拾いSNSピリカHP

登録が簡単

スマホでアプリをダウンロードして利用するほか、PCでも利用できます。どちらもメールアドレスとパスワードを設定するだけでアカウントを作成できるうえ、すでにお使いのSNSを利用してログインすることも可能です。

アップが簡単

ゴミを拾ったら、回収した量と人数と場所を入力し、写真を選択してアップするだけと非常に簡単です。ゴミの量も単位が「個」から「袋」まで選択できるので、ちょっと拾うだけでもOKです。

ユーザー間の交流

アップすると他の利用者から「ありがとう」が送られてきます。SNS導入初期はいいねが付きにくくて苦戦することが多いですが、ピリカは初投稿でも50以上のありがとうが送られてきました。

こんな使い方ができます

●いつもの清掃活動の記録兼 PR 媒体として

活動ごとに実施した日にちと参加者数、回収したゴミの量、そして写真をアップするだけで、プロフィールから過去の投稿を確認できます。トータルの参加者数は表示されませんが、回収したゴミの量は総量が表示されます。広瀬川 1 万人プロジェクトの清掃だけでなく、定期的に地域の清掃を実施している団体も多いと思いますが、取り組みを PR していないケースがほとんどだと思います。せっかくなのでたくさんの人に知ってもらいましょう。

●会社や団体での活用

会社や団体内でパスワードを共有すれば、一つのアカウントを複数人で運用できます。
一人で管理すると時間経過とともに投稿の頻度が下がることもありますが、複数人であれば、通勤や打合せに出かけたついでのゴミ拾いの頻度も増えるので、継続も楽になります。

●グループの活用

例えば「広瀬川 1 万人プロジェクト」でグループを作って、そのメンバーに加わると、他のメンバーの投稿を見たりリアクションが簡単になるほか、掲示板やイベントを共有できるようになります。また、登録者の投稿の総人数、総ゴミの量が集計されるので、グループ内で「目指せ年間〇千人!」という目標を掲げて活動するのも面白いかもしれません。

●ハッシュタグの活用

ハッシュタグをつけることができるので、ゴミ拾いをした際には # 広瀬川 1 万人プロジェクトを付けて投稿してください。ありがとうの総数、人への影響度、ごみの総数の推移を確認することもできます。事務局が定期的に検索して、HP や本紙で紹介することで、アプリ以外でも活動を PR 出来るようにしたいと考えています。

講演会

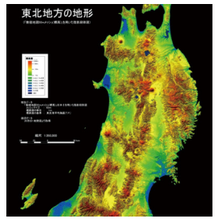
災害と日本人 ー異常気象の世紀を迎えてー 市民が守る

講師 **竹村 公太郎 博士**
(日本水フォーラム代表理事／元国土交通省河川局長)

開催日:2023年12月6日(水)
会　場:仙台市市民活動サポートセンター 6階 セミナーホール

今日は「災害と日本人、市民がまもる」が大事なテーマ。34万年前からの気温の変化を見ると、縄文海進のときから現在まで下がっていて、今温暖化が始まっていると思う。子供の頃は寒冷化していたが、この20～30年で温暖化。私は土木屋なので現状だけを追っていきたい。2万年前の寒冷化の時、海水温度が低く収縮化したが、温暖化して氷河が解けて海水面が5m上がった。それから水位が下がって沖積平野が形成されて、名取周辺が地表に出てきたのが現在。私たちの文明があるところ。

仙台の誕生の物語



大学時代は歴史に興味がなかったが、政宗さんの意図を今地形といっしょに考えると意味が分かる。地形だけで仮説を積み上げたのが私の特徴。

戦国時代の勢力図を見ると、徳川・北条・上杉・伊達…といる。豊臣秀吉が北条をやっつけよう北条攻めをするのに、関東の真ん中は大湿地帯だから行かなかった。1590年、徳川を幽閉するために関東に置いた。江戸城は武蔵野台地で米がとれない、雨が降っても流れてしまって土地はカラカラで、大きな川がない。大湿地帯の方はベトベトでいつもさっちもいかない。ド田舎で農家が100戸くらい。寒冷化になってきて江戸時代は海面が下がっているが、関東平野は見渡す限りの湿地帯だった。

ほかに追いやられた人が伊達政宗。伊達政宗は日本最悪の地、大崎へ行った。阿武隈川、名取川、鳴瀬川、北上川と、宮城県の河川課ほど最悪の土地を管理しているところはない。鳴瀬川は無理して流れているし、北上川・旧北上川ほどひどいところはない。

伊達政宗は東軍として戦って、1601年家康の許しを得て仙台開発をした。政令指定都市で洪水がないのは仙台だけ。堀込河道で堤防がないのは安全。堤防で守ろうという魂胆が危ない。政宗は大崎にいたときに懲りたから町全体を高台に持ってこようと思った。城下の水は四ツ谷用水をひいた。広瀬川・名取川の氾濫する部分に堤防をつくって穀倉地帯にした。100%安全な場所、仙台に住んだ。文書には出ていないけど、大崎に閉じ込められた苦しさで、秀吉は許せないと思った伊達がいるのではと思う。

政宗が3・11で仙台市民を救った

3・11のときは電気水道が止まった。水道は止まったが水洗トイレは使えた。仙台市の下水の施設にポンプは1個もなく自然流下している。圧倒的な工コ。東京はそうはならない。下水が止まったら汚水だらけになる。飲み水はペットボトルや自衛隊など、どこかから入ってくる。南蒲生の下水処理場は被災したが、自然排水で簡易殺菌処理をして海へ流した。1601年の伊達政宗の判断が3・11の災害を救った。これからの子どもたちに知ってもらいたい物語。

四ツ谷用水は遠くからもってきた水で、しょぼしょぼした水路だが城下は高台だからしょうがない。水路は名取平野の農業用水に供給された。論理的な街づくり。

沖積平野に超近代都会

徳川家康は関東平野を大穀倉地帯にした。利根川を付け替えて70は銚子に、30しか東京に来ないようにした。昭和の湿地帯は胸まで泥につかって田植えしていた。日本の文明は、湿地を乗り越えること。150年前、つい最近まで東京のど真ん中は湿地だった。365日、下水道整備と河川整備、水を排水しまくって維持している。東京駅は浮かないようにアンカーを打っている。そうして東京は成り立っているので、油断したら水浸し。

日本の国土の10%に、人口の50%と資産の75%がある。先進国では日本だけ。稲作をした湿地の場所を大都会にしてしまった。日本にとって治水は宿命。

今見ている河川は人工の流路である。日本の河川は江戸時代に作った。小さな名もない川も海まで堤防があり、流域開発をしてきた。耕地面積と人口の変遷グラフをみると、平安時代から広がらなかったものが、江戸時代になって一気に広がった。人口の増加と一致している。

名取川の河口部に堤防があるのは、農地が守られてきたから。治水というディフェンスではなく、国土開発というオフェンスが行われてきた。

決壊は、壊れるところが決まると書く。欠ではなく決。どこが決壊するかわからない。治水の原則は、洪水の水位を1センチでも下げること。水位を下げる手法は、川幅を広げる、川底を掘る、他へ誘導する、流速高める。三面張りが水位を下げる最適なものとされた。

行政と民間・住民の連携

流域全員で守る。行政が作る、管理パトロールはするが、水防法で実際の洪水時は地元が守ることが決められている。

行政と民間の連携。行政、政府の力は弱ってきている。コースターの上に行政がたっている。行政はそれぞれの間を侵さないので、その隙間に市民が落ちてしまった。膨張する時代は隙間が無いくらい行政が頑張ったが、21世紀は縦割りの隙間を民間企業とNPOが埋めなければならない。そのため、皆さんの取り組みは重要。水防団の考えが市民活動の原点。

広重の絵にある隅田川の吉原日本堤。堤防は大名がつくったが、男性が日々歩いて踏み固めた。木曽三川の輪中は、市民を歩かせるため神社が作られた。花笠踊りも踏み固めるためのもの。甲府の信玄は、三社神社を祭って、周辺の集落から人を集めて神輿を担がせた。堤防を踏み固めさせ、維持管理を行わせた。神社に集まってお祭りを行うことは治水そのもの。皆さんの活動、全国の河川のゴミ拾いも、縁。市民が集まって川でお祭りをするのは日本だけかもしれない。「木を植えなさい、石を持って堤防を固めなさい、お祭りをしなさい」と記された石碑がある。社会変化に応じて変化してきて、その流れで流域治水となった。みんなで流域を守ろうという新しい概念。流域は故郷・共同体。

C:竹村公太郎